

第 30 回 砥川流域協議会 議事録

- 1 日時 平成 31 年 1 月 30 日（水） 午後 6 時～午後 7 時 30 分
2 場所 下諏訪町総合文化センター 2 階集会室
3 出席者 会員 12 名
関係行政機関（諏訪地域振興局、諏訪建設事務所、下諏訪町）

1 主な事項等

- ① 建設事務所より、河川改修の全体計画、平成 29 年度までの整備状況及び平成 30 年度実施事業（河床整理、河川改修、水位計の移設、床固工、福沢川合流点親水護岸等）について報告がありました。
- ② 雨量と流量の関係について、出水時の観測結果を用いた相関関係について建設事務所より説明がありました。
- ③ 新たな森林管理システムについて地域振興局より説明がありました。
- ④ 平成 30 年 7 月豪雨に伴う砥川の出水状況について会員より説明がありました。
- ⑤ 今後の議題等については、座長、事務局等で協議して決定することになりました。
- ⑥ 「砥川流域協議会会則」第 5 条・第 9 条に基づき、座長として藤森至さんが選出されました。
- ⑦ 「流域協議会会則」第 5 条により、座長代理に宮坂正彦さんが指名されました。

2 討議

開会

建設事務所長挨拶

会員数報告

自己紹介

議事

- (1) 河川改修等の実施状況について事務局より説明（配付資料とパワーポイント利用）
- (2) 雨量流量観測について事務局より説明（配付資料とパワーポイント利用）
- (3) 新たな森林管理システムについて地域振興局林務課より説明（配布資料）
- (4) 平成 30 年 7 月豪雨に伴う砥川の出水状況について会員より説明
- (5) 座長改選

質疑応答・討議の概要は下記のとおり

【質疑応答】

会 員)

雨量とは一時間ごとの雨量のことか。

建設事務所)

こちらで示している雨量は連続雨量で 24 時間のデータ雨量である。

座 長)

これから新しい森林管理システムが行われるということで質問・意見ありましたらどうぞ。

会 員)

砥川の土砂は砥沢から出てくる。砥川の西岸の方にほとんど脆い所があるので、どうにかして木を植えると土砂流出の維持管理として良いと思う。木の種類がどの様なものが良いか考えてみた。今はニセアカシアが植えられているが、背が伸びると転んでしまうという特性がある。それに似たものでサイタチという物があるが、割に粘りが良いし土を固められるので、ああいう物を利用してもらえると有難いと思うがいかがか。

振興局 林務課)

非常に勉強になる。植栽する事は可能だと思う。苗木の供給などあるので即座に植えられるとは言えないが、充分考えられる事。山を守っていくという意味では非常に良いと思う。砥沢はこれから植栽をしなければいけないという現状があるのか、ないのかという所があり、現状で木がある山はある程度伐採してから植栽するという事になる。その辺は即座に植栽する方向に移るのは難しいかと思うが、順次広葉樹の植栽は考えられると思うので、御意見を参考にさせて頂きたいと思う。

会 員)

森林の新しいシステム、良いなと思いながら聞いていた。

武居林道を良く歩くが、間伐が出来ていて非常に良い山になってきたなと思う。それで 2. 3 お聞きしたい。

①間伐事業について、長野県の税金で間伐事業をしていると思うがそれをどこが担っているのか。多分森林組合が全てかと思う。最近自分の持ち山を伐採したが森林組合で対応できなかった。やむを得ず市中の林業者に頼んだが、やはり森林組合がもう少し力を付けて頂いて色々なものに対応できる様な力が欲しい。もし森林組合だけで対応出来ないのならいわゆる地場の林業者をしっかりと上手く運用していく、そんな所を今どんな形で管轄をしているのか、お聞きしたい。

②伐採をした後、普通の林業経営者だと植林をしたい。個人で植林をした場合、鹿とかの害が出てなかなか育てるのが難しい。私も年に 100 本位植えているが 2、3 割やられてしまって上手く育たない。その辺の指導も新しいシステムの中に入れて頂ければと思う。当然お金の面の費用の補助もあると思うが。

振興局 林務課)

まず森林組合さんの話だが、限られた職員の中で回っていて、なかなか手が回りきれてい

ないという状況はある。逆に言うと他の地域に比べると諏訪地域は林業の会社さんが非常に元気が良い。下諏訪町でいうと先ほど名前を出した長地にある建設会社、東山田の地域でかなり大々的に間伐事業を進めている。下諏訪では、かなりの部分を占めているのが実状。地盤がある中で皆さんやっているの、部分的にあそこをやってここをやって…というのは難しいと思うが、ある程度とりまとめ、地域毎でやっていくという流れが作ればかなり手厚く、地域地域で補助事業を活用していく流れも作れると思う。

あそこでちょこっと補助事業、むこうでちょこっと補助事業というのは中々制度的に難しいので、まわりを巻き込んで地域全体としてやっていくという流れをつくれればというのがこちらとしてのお願いだが、よろしいか。

座 長)

森林が良くなれば砥川の治水というのも良くなるだろうと、協議会も繰り返し、皆さん熱心に論議しているが、また林業を宜しく頼む。この題については宜しいか。

会 員)

森林の間伐の利用という事で、下諏訪町でも何年か前からペレットストーブを利用する場合は補助金を出してもらえるとという事で、私も利用しているが、ペレットを買うのに長く利用していた所が撤退してしまった。上伊那の森林組合のペレットは良く来ていたが、諏訪の森林組合はそういう様な利用はしていないのか。

振興局 林務課)

長野県でペレットを作っているのは上伊那森林組合と飯田市の2社で作っているのみで、諏訪の森林組合では作っていない。諏訪森林組合に頼めば上伊那森林組合で作っているペレットを供給してもらえると。ぜひペレットストーブの導入をして欲しい。

座 長)

続いて(4)平成30年7月豪雨に伴う砥川の出水状況について…に入りたい。

差しあたって洪水がうまく凌げたのが良かったと思うが、一番身近で観察された柳澤さんに発言をお願いします。

会 員)

私は赤砂に住み始めて37年位になるが、元々の住人ではない。平成9年に町内会長をさせて頂いた時に「赤砂の歩み」という赤砂史を発刊し、その時地主や長老に勉強させて頂いた。砥川は昔は相当な暴れ川であったが、不思議と岡谷の方には土砂は流れず、今の漕艇庫の方に流れて、大変な思いをしていた様である。その様な話を聞いていたので、雨の多い時は砥川の出水に関心を持って見張りに行ったりしていた。

平成29年に赤砂橋から下の工事をしていたのが、藤森土木さんだったと思うが、その当時も雨が多くて3回位現場を流された。そういう事があり、担当の五味さんに「なぜ土嚢をちゃんと積んで流されないようにしないのか」と尋ねたら、「土嚢を高く積むとそれに当たった水が石の堤防の方に行って堤防を決壊する恐れがある。だから極端に多い時は土嚢を越して水が流れているように考えている。」と言っていた。

この写真に土嚢があるが、全く違った積み方をしている。3段以上になっている。それもなだらかに作って頂ければいいが、壁の様になっている。だから上から流れてきた水はこれにドンと当たって、今度はすずり口の水門に突き当たって、また反対側に突き当たって、この決壊した所の方へ水が当たる。私は当然そう考えられたから「土嚢を少し取ったらどうか？」と現場の大塚さんに申し上げたが、聞き入れてもらえなかった。

どんどん水かさは増えてくるし水が流れる幅は狭かった。心配していたが、所用がありそちらの方に行っている間にここが崩落した。この手当てをしている所を私は見ていないが、早急な対応をしてもらって大事には至らなかった。しかし近所の方に状況を聞いていたら「もう絶対切れると思っていた。倉敷と同じ様な状況になるのではないかと見ていた。」と話してくれた。でも間一髪、手当てをしてもらって免れたという事は幸いだっただと思っている。そんな怖い思いをしたという事を皆さんにお伝えしておこうと思う。

なおこの崩落した所の水門はわれわれの側溝に流れてくる元なので、私はしょっちゅう来て見ている。崩落した堤防はコンクリにヒビが入っていて、そこに水が当たったら危ないと思って見ていた。崩落した所は写真の上の方だが、これと新しい所の継ぎ目がここで、この所も切れなければいいなと思っていたが、幸いここは助かっている。一番先に水が突き当たって、また反対側に突き当たった所がここにある水門の所。この水門の所は相当頑固に出来ているから、崩落した所に水が集中した。先程言った堤防のコンクリはもう剥がされて、見事に欠けて川の中へ出てしまっている。砥川の堤防は強固な物ではないと昔の方から聞いていたが、これがえぐられた時に覗いてみたら「ああ、なるほど。これじゃあダメだな。」という事を感じた。

座 長)

この洪水について、皆さん、柳澤さんの話に追加する所がありましたらどうぞ。

会 員)

洪水の時、柳澤さんが仕事でここを離れなければならなかった時、どうしても心配でならないと私の所に電話がかかってきた。「県や町の方にちゃんと言ってくれ。」という話があり、どう対応していいか分からず、五味さんに依頼して県や町に対応してもらった。業者が夜通し監視してくれ、かなり堤防がえぐられて決壊しそうになったが、いち早く石などをあてがって、それ以上崩れていかにないように応急処置をして大事には至らなかった。崩落が始まると一気に土はえぐられていってしまうのだと思う。土手の中にしっかりした物が入っている訳ではないので、一旦表面にある石垣がなくなってしまうと一気にえぐれてしまう。監視をしながら夜中見ていてくれたので間一髪何とかだった。非常に大きな教訓だと思った。こういう雨季の時や台風の時はどうしても思わぬ大きな水が流れてくると思う。そういう時にも、どうしても工事はかかってしまうと思うが、万全の体制を取ってやってもらいたい。今、鉄橋の左岸の方も工事をしているが、雨季や台風の時期にさしかかる様だったらかなり慎重に水のはけ口を考えながら工事をやって頂きたい。柳澤さんの話に補足させて頂いた。

座 長)

何とか凌げて本当に良かったと思うが、またこの体験を私達も共有できたらいいと思う。要望的な事もあったので、建設事務所の方で何か発言はあるか？

建設事務所)

色々と意見頂き有難い。実際に出水期に出来るだけ工事をやっている事がないように早く進めてやっていきたいが、どうしても出水期にかからざるを得ない事も正直出てきまうと思う。やはり昨年7月の様な突然の豪雨で水位が上がってしまう事もあるので、現場の外に被害が及ぶ事がない様に、ご意見頂きました通りより慎重な体制を取りながら工事して行きたいと思う。今工事している富士見町から JR 橋までの間だが、現在工事の予定は出水期前の6月いっぱい位に何とか工事を終わらせる予定で進めている。

座 長)

この洪水について何か他に意見はあるか？

会 員)

自分が気になるのは、そこに住んでいた方も昨日今日に住み始めた訳ではなく、ずっとそこに住んでいて災害に遭われた。という事はその方達が行政に依存していたのか、それとも自分の住んでいる河川について正しい認識を持っていないで、今まで何も起こっていませんでしたからこれからはいいだろう...。ところがそんな訳にはいかなかった。一番大事なのは自分が生存している所が山や川なんかとどういう関係があるかという事を頭の中にしっかり叩き込んでもらう様に行政をしてもらいたい。それをしていないから自己決定が出来ない。そして事故が起きてしまう。基本的な自分の立場がどういう事かという事を頭に入れてもらって自己決定をして命だけは助かる、そういう仕組みをしなければいつまで経っても上手くいかない。まず砥川の特長から見て、非常に流れが速い。雨のピークが一番高い所から一時間も経てば本当の水がやってきてしまう。この特性は非常に恐ろしい。砥川の上流はすぐ水が出る。降った時間と溜まった雨量と砥川の高さ、この3つを良く頭に入れて、川の近くに住んでいる人と行政と声掛け運動をする。知っている人が声を掛けて「さあ逃げろ」と言わなければ、知らなければ皆やられてしまう。川の近くに住んでいる人が誰よりも知っていなければならないのに、一番知らない。その為にやられてしまう。大体の経験値が一番大事な事、それで判断する。

最後に私が一番望むのは、砥川の雨どい型である。これが一番土砂を流すし、最も理想的なやり方。今の通りでは土砂が堆積し、その後たちまちアカシア、クヌギ、柳、そういう物がどんどん入ってきて川が埋まってしまふ。それを雨どい型にすれば一気に諏訪湖までたくさん流して、それで色々の管理費が安くなる。

座 長)

予定していた時間が7時30分ということなのでご協力願いたい。

会 員)

今回の出水の関係で一つだけ良い点は流木が諏訪湖の手前までしっかり流れていた。それ

が今までのように橋の所に柱があれば絡んで大変なことになっていた可能性があった。県には本当に感謝している。

会 員)

工事着手の関係で全体計画改革と下流から医王渡橋の管理で、福沢川の上流が計画でいくと31年以降となっている。そこには砥川保育園があるが裏を改修しているので子供たちが細い道を通り危険な目にあわないよう、この様な危険箇所を優先に着手していただきたい。実は福沢川の下は道幅が広いが上流の方はカーブで幅も狭くなっており危険なのでできれば31年以降になっているが早めに着手していただきたい。

座 長)

建設事務所の方でよろしいか。

建設事務所)

今、危険箇所ですら狭い所があるということ聞いている。治水安全度、洪水に対して安全度を上げていかなければいけないということで下流から順番にやりたい。どうしても上が出来ても下流が狭い所、弱い所があると堤防が壊れてしまうことが考えられる。32年までということで、あと1年2年できるだけ事業が早く進められるよう予算要望している。極力早く事業が完了できるよう努めていきたいのでご理解いただきたい。

会 員)

福沢川の上流で保育園の所の一部工事着手して中途半端みたいな形になっているがどうなっているのか。

建設事務所)

保育園の区間で一部工事をした所があった。あれは先ほど柳澤さんが話されたことと関係があるが7月豪雨で反対側の護岸が壊れて、そのまま置いておくのは危険なため崩れたところのみを先に施工している。

座 長)

それでは今の話は了解したということで先に進めさせていただきたい。どうしてもという方、あるいは一言も発言してないという方はどうか。

では、予定の時間で実りのある討論をいただいて感謝する。

建設事務所)

五味座長、円滑な議事の進行を感謝する。以上をもって第30回砥川流域協議会を閉会する。

-以 上-